

一

次の文章は鴻上尚史『空気』を読んでも従わない』の第一章「なぜ先輩に従わなければならないの？」に続く第二・三章である。これを読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります。※が付いた説明は出題者が加えたものです。)

もうひとつ、この国の文化と関係のある話をします。

あなたは、人の頼みを簡単に断れますか？

友達から何か頼まれた時、イヤなことはイヤだときっぱりと言えますか？

① イヤだなあと思つていても、なかなか「イヤです」とは言えなくて、ずるずると相手の言うことに従ったりしませんか？

この国では、なかなかイヤと言えない人が多いのです。

それも、あなたの弱さではなく、この国の文化と関係があるのです。

昔、アメリカ人のスタッフと仕事をした時のことです。

「〴〵をやってくれませんか？」と言うと、そのアメリカ人はにこやかに微笑みながら「できません」と答えました。

僕はびつくりしました。

普通、私達日本人が何かを断る時は、すぐくつらそうな顔をするか、申し訳ないという悲しい顔をするか、すみませんという反省

する顔をします。

でも、そのアメリカ人は、微笑みながら「NO」と言ったのです。

僕は衝撃を受けました。

そんな顔で「イヤです」と言う人を見たことがなかったのです。

あんまり驚おどろいたので、「どうして、微笑んでいるのですか？」と聞きました。

相手は②して「どうして微笑んでいたら変なの？」と逆に質問してきました。

僕は「だって、断るってことは、ストレスがたまりませんか？ 『NO』って言うのは、ハードルが高くないですか？」と答えました。

彼は、やっぱり、②したまま、「できないことをできないということは、あた当り前のことでしょう」とサラッと言いました。

それもそうだなと、僕は思いました。

でも、僕は、そしてたぶんあなたも、何かを頼まれて断る時は、とても苦しい気持ちになります。

申し訳ない気持ちになります。

そんな気持ちになりたくないから、③なるべく、ムチャだと思ふ頼みごとも、聞こうとしてしまいます。

どうしてなんだろう？ と思いました。

イヤなことをイヤと断るだけで、どうしてこんなに苦しいのだろう。

よく考えたら、変です。

だって、自分はイヤだと言っているだけなのです。

なのに、僕だけじゃなくて多くの日本人は「イヤです」と言うことにストレスというか、抵抗ていこうを感じるのです。

④それ以降、僕は、外国人が断る時の表情をよく観察するようになりました。

じつに、⑤自然に「イヤです」と言っているように感じました。

できないことはできない。イヤなことはイヤ。ムリなことはムリ。そんな当り前のことを言っている様子でした。どうしてなんだろうと考え始めました。

そして、「世間」と「社会」という考え方にたどり着きました。

この二つが、この国の文化を理解する重要なヒントなのです。

(中略)

「世間」というのは、あなたと、現在または将来、関係のある人達のことです。

具体的には、学校のクラスメイトや【 X 【が、あなたにとって「世間」です。

「世間」の反対語は、「社会」です。

「社会」というのは、あなたと、現在または将来、なんの関係もない人達のことです。

例えば、【 Y 【、隣町となりまちの学校の生徒などです。

日本は「世間」と「社会」という、二つの世界によって成り立っているのです。

具体的にどういことか、説明しましょう。

あなたはおばさん達の団体旅行とかに出会ったことはありませんか？

昔、僕が駅で電車を待っていた時のことです。

周りにおばさん達が何人かいました。

電車がホームに入ってきて、ドアが開くと、僕の前にいたおばさんが駆け込みました。

そして、四人掛けのシートの前に立って、僕の後ろに向かって声をかけました。

「鈴木さん！ 山田さん！ ここ、ここ！」

後から来たおばさん達は、その声に従って、僕を追い越して当然のようにシートに座りました。

僕ともう一人の乗客は、おばさんにブロックされて、シートに座れませんでした。

一般的なルールでは、乗ってきた順番にシートに座るはずですが、でも、このおばさんは、僕達を無視して、後ろの仲間を呼んだのです。

イ どうです。こんな光景、見たことないですか？

ロ このおばさんは、おばさんを知る人達の間では、おそらく、世話好きで面倒見がいいと思われてるはずですが。

ハ そうじゃない、ということをおあなたは分かるでしょう。

ニ 僕を無視したおばさんは、冷たい人でしょうか？

おばさんは、自分に関係のある人達を大切にしているのです。

「世間」は、自分と関係のある人達のことだと書きました。

つまり、このおばさんは、自分の「世間」を大切にしているのです。

そして、次に乗ってきた僕ともう一人の乗客は、自分と関係のない「社会」の人なのです。だから、簡単に無視できるのです。

日本人は、基本的に「世間」に生きています。

自分に関係のある人達をとでも大切にします。【 A 】けれど、自分に関係のない「社会」に生きる人達は、無視して平気なのです。

それは、冷たいとかいじわるとかではなく、生きる世界が違^{ちが}うと思っ^{おも}っているからです。

あなたも、街で知り合いに会うと、気兼^きねなく声をかけるでしょう。【 B 】

「世間」に生きている人とは、普通に話せます。【 C 】

でも、知らない人にはなかなか声をかけられないはずです。【 D 】

『Cool Japan』^{クールジャパン}（※ 筆者が司会をつとめるNHKのテレビ番組）に出演しているブラジル人が、ある日、僕に言いました。

「日本人は本当に優^{やさ}しい人達だと思^{おも}う。3・11の東日本大震災^{だいしんさい}の時、みんなが助け合^あっていた。私の国^{くに}だったら、コンビニが襲^{おそ}われたり、交通が乱れてパニックになっ^なっていただろう。でも、日本人は、そんなことはなかつた。素晴^{すば}らしい」

ところが、数日後、彼は戸惑^{とまど}った顔をして僕に言いました。

「今日、ベビーカーを抱^{かか}えた女性が、駅の階段を上^あがろうとしていた。彼女は、ふうふう言^いいながら、ベビーカーを抱^{かか}えていた。信じられない。私の国なら、すぐに彼女を助^{たす}けて、ベビーカーを代わりに持つ^もつてあげるだろう。どうして日本人は彼女を助^{たす}けないのか？ 日本人は優しい人達じゃなかつたのか？」

どうして助けられないのか、日本人のあなたなら、その理由は分かるでしょう。

日本人は冷たいからか？ 違いますよね。

ベビーカーを抱えている女性は、あなたにとって「社会」に生きる人だからですよ。

つまり、あなたと関係ない人だから、^⑥あなたは手を貸さないので。いえ、貸せないと言ってもいいです。他人には声をかけにくいのです。

もし、その女性が、あなたの知っている人なら、あなたは間違まちがいなく、すぐに助けたでしょう。

冷たいとか冷たくないとか、^⑦関係ないので。

私達日本人は、自分と関係のある「世間」の人達とは簡単に交流するけれど、自分と関係のない「社会」の人達とは、なるべく関かわらないようにしているのです。

というか、より正確に言えば、関わり方が分からないのです。

この本を読んでいるあなたの周りには、「世間」と「社会」という2種類の世界があるのです。

あなたはふだん、学校や塾、近所の知り合いの人達という「世間」に生きているはず。そして、道や駅やお店で会った「社会」に生きる知らない人と長く深く話はなし込こむ機き会は、あまりないと思います。

それが、平均的な日本人です。

問1 — 線① 「イヤだなあと思っている、なかなか『イヤです』とは言えなくて」とあるが、「イヤです」と言えないのはどのような気持ちになるからか。十字以上二十字以内で答えなさい。

問2 二カ所の②に当てはまる言葉を、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ モジモジと ロ キョトンと ハ シレットと ニ シュンと ホ ムツと

問3 — 線③ 「なるべく」が直接かかっている言葉はどれか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。
なるべく、イムチャだとロ思うハ頼みごとニ聞こうとしてホしまいます。

問4 — 線④ 「それ以降」の「それ」にあたる経験について書いてある部分はどこから始まるのか。最初の五字を答えなさい。

問5 — 線⑤ 「自然に」と同じ意味の四字の表現を、初めから3ページの(中略)までの文章中から探し、ぬき出して答えなさい。

問6 文章中の【X】【Y】には例としてさまざまな人があげられている。次の1～6の人は【X】【Y】どちらの例といえるのか。X・Yの記号で分けて答えなさい。

- 1 塾で出会う友達 2 親しい近所の人達 3 道ですれ違った人
4 地域のサークルの人 5 電車で隣に座っている人 6 初めていくコンビニのバイトの人

問7 〰️線で囲まれたイ、ニの四行は、元の文章と順番を入れかえてある。正しい順に並べかえて、記号で答えなさい。

問8 文章中から次の一文をぬいてある。戻すとすればどこが適当か。【A】〜【D】の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ それは、「社会」に生きる人だからです。

問9 〰️線⑥「あなたは手を貸さないので」とあるが、それはなぜか。その理由を説明した次の文の【 】に当てはまる十字の表

現を文章中からぬきだして答えなさい。

- ・ 手を貸したくても、関係ない人との【 】から。

問10 〰️線⑦「関係ないのです」とは、何と何が無関係なのか。三十五字以内で答えなさい。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります)

わたしのことを、誰にも知られたくない。

ろくな目に遭わないのは、もうわかりきっているから。

それなのに、どうしてこんなにも、立て続けに最悪なことが起こるんだろう。

休み時間に、誰とも眼を合わせないよう、机に向かったまま息を殺してじっとしていたときだった。

「田中テイアラあああ」

いつものように、けらけらとした笑い声とともに、^①わたしの名前を呼ぶ声があった。わたしはびっくりとして、戸口の方へと眼を向ける。

そうして眼にとまった姿に、身体が凍りつきそうになった。

どうして。

どうして、よりもよって、^②こんなところで。

戸口に立っていたのは、倉田さんだった。

あれから、ずっとあの教室には行っていないくて、だから姿を見かけたのは久しぶりのような気がした。

知り合いの女の子に声を掛けて、わたしを呼び出してもらおうとしたのかもしれない。

眼が合うと、倉田さんはぱっと顔を輝かせて、^①テーマキをした。

わたしは唇を噛みしめて、胃がきりきりと蠢くのを感じながら、どうにか立ち上がる。

血の気が引く思いで、戸口へ向かった。

「サンキュ」

わたしを呼んだ女の子に、倉田さんが笑いかける。

「けれどなんでティアラなの？」

そう、^③無邪氣むじゃきに倉田さんは訊きいた。

「え、知らないの」ふっと笑い出しながら、女の子が答えた。「こいつ、田中ティアラって名前なんだよ。涙なみだの子って書いて、ティアラ。マジウケるでしょ」

くすくす笑いながら、女の子がそう言った。

「え——」

不思議そうな声を、倉田さんが漏もらす。

「ルイコじゃないの？」

「ティアラだって、ティアラ」

女の子が笑っている。

^④嘘うそをついていたことが、ばれてしまった。

死んだ方がいい。

もう、おしまいだ。

わたしは、戸口の女の子を突き飛ばす。

そうして、廊下ろうかを走った。

「ルイ、ルイ！」

⑤ 声が聞こえるけれど、もうなにも見えなかった。

視界が白く濁って、急に視力が悪くなったみたいになる。

わたしはお昼休みの廊下を駆けた。逃げ出したかった。死にたかった。声をあげたかった。呻きながら、ただひたすらに走った。どこへ行くとしたのかはわからない。昇降口へ向かって、外へ飛び出して、トラックにでも轢かれて死ねばラッキーだったろう。

けれどぶつかったのはトラックではなくて、人間だった。

場所も、道路ではなくて、昇降口に辿り着くまでの廊下だ。

女の人の小さな声があがって、なにかがばらまかれる音がした。

わたしはいつの間にか ⑥ 尻餅を□□していた。

「田中さん？ どうしたの？」

声に顔を上げて、瞬きを繰り返す。涙が弾けるみたいに、濁った視界がほんの少しだけ鮮明になった。泣いていることを知られなくて、わたしは慌てて目元を擦る。

「どうしたの？ 痛かった？」

わたしは唇を結んで、 ⑦ かぶりを振る。

「悲しいことでもあった？」

そう聞いてくるのは、司書のしおり先生だった。

廊下を歩いているところを、わたしとぶつかったからだろう。彼女の周囲にはプリント用紙がたくさん散らばっていたけれど、しおり先生は

それらに眼を向ける様子もなく、膝をついたまま不安そうな表情で、わたしの顔を覗き込んでいた。

不思議な話だった。さつきまで死のうと本気で思っていたのに、今は泣いているところを見られた恥ずかしさでいっぱいだった。顔を赤くしながら、わたしは必死にかぶりを振って、なんでもないのでと「ヒテイする。けれど、ティアラというお笑いものの名前が示す通り、泣き虫であることを運命付けられたわたしの涙は、隠しようがなかったのだろう。先生は、そっと人差し指をわたしに伸ばした。そのほんのかすかに光沢を帯びた爪の先を、わたしは尻餅を□□た姿勢のまま、ぼんやりと見つめる。

しおり先生の指先が、わたしの涙を掬い上げた。

「ねえ。よかつたら、図書室に来る？」

*

本当なら、注がれた紅茶の香りが、漂ってくるのかもしれない。

けれど、わたしの鼻はどろどろの鼻水で詰まっていたから、ちゃぶ台の上でほんのりと湯気を立てているカップの香りがどんなものなのか、知ることはできなかった。

「はい。どうぞ」

「A いただきます……」

わたしはなんとかそう告げて、畳に敷かれた座布団の上で身じろぎをする。

先生は紅茶の銘柄を教えてくださいけれど、わたしはすぐにそれを忘れてしまっていた。口をつけてみると、なんとなく、甘くておいしい気がする。

「B そつか、涙の子かあ」

先生は自分も紅茶を一口飲んで、それから⑨難しそうな表情で、そう呟いた。

⑩ □□を言わずに連行されたのは、狭苦しい司書室の中だった。

既にお昼休みが終わっている時間だったから、すぐ戻らないとあの冷徹な先生に叱られてしまうに違いなかったけれど、しおり先生はわたしを引き止めた。先生が連絡をしておくし、美味しい紅茶も淹れてあげるから、もう少し休んでいこうよ、なんていうふうだ。

先生は、優しくわたしが泣いていた理由を訊ねてきた。もちろん、わたしは答えたりしなかったけれど、先生の静かな声音に誘われたような気分になって、わたしは「D わたしがティアラだから」とだけ呟いた。しおり先生は、そんな意味不明なわたしの呟きに、難しそうな表情で、涙の子かあ、と呟いたのだ。

先生は少し困ったように眉を寄せて、優しく言う。

「名前の通りに、生きる必要なんてないんだよ。先生も、自分の名前の通りに生きてる自信はないもの。涙の子だからって、泣く必要はないんだから」

わたしが黙り込んでしまった。先生は、わたしが泣いていた理由を探るのを諦めたのか、ぜんぜん違うことを言った。

「田中さんは、最近、⑪ 漫画を読んでないね。前はよく、漫画を読んでいましたよ」

わたしは、はっとして顔を上げる。

先生の言う通り、図書室の当番のときは漫画を読んでいた。けれど、漫画を持ち込むのは校則で禁じられているから、先生にはばれないようにしていたつもりだった。

⑫ どうして

「見ればわかるよ。先生は、司書ですから」

そう言いながら胸を張り、しおり先生は誇らしげに言う。

「どうして、怒らないんですか」

「ふふふ、それはね」

子どものような笑みを浮かべると、秘密めかして先生は言った。

「先生も、漫画が好きだから」

若い先生だから、それに不思議はないのかもしれないけれど。

だからって、校則で禁じられていることを見過ぎすなんて、先生としてはどうなのだろう。

ちよつと呆れてしまう。

「本や物語に、貴賤はないよ」

キセン、という言葉を変換するのに、ほんの少し時間がかかったけれど、漫画で出てきたことのある単語だったから、なんとなく意味は理解することができた。

「小説でも、漫画でも、物語の価値は等しく、人の心を動かすから」

「でも、馬鹿にされます。くだらないものだって……」

「だからカバーをかけて読んでいるの？」

しおり先生は、そう首を傾げて言う。

思っていたより、普段の行動を先生に見られていたらしい。

カバーをかけていたのは、校則で漫画が禁じられているからだけけど、たとえ校則で赦されていたとしても、わたしはカバーをかけていた

ろうな、とも思う。

「なにを読んでいるかは、知られたくないです」

馬鹿にされたくない。

自分のことを知られて、笑われたくなんて、なかった。

読んでいる本のこと、趣味しゅみのこと、夢のこと。

役に立たないとか、くだらないとか、悪い影響えいきやうがあるとか。

大好きなものを、ヒテイ、されなくなかった。

(相沢沙呼「煌きらめきのしずくをかぶせる」による)

問1 ——線①「わたしの名前を呼ぶ声でした」とあるが、それは誰の声か。「倉田さん」からはじまる次の文の【 】に当てはまるように、二十五字以上三十字以内で答えなさい。

・ 倉田さん【

】の声。

問2 ——線②「こんなところ」とはどのようなところのことか。最も適当なものを次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 倉田さんのいるところ ロ みんなのいるところ ハ いじめられているところ ニ 一人ぼっちでいるところ

問3 ——線③「無邪気に」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ いじわるく ロ かわいらしく ハ こどもっぽく ニ わるぎなく

問10 ー線⑩「□□を言わず」という慣用句の□□に当てはまる語として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 愛憎 あいぞう ロ 有無 うむ ハ 黒白 こくびやく ニ 是非 ぜひ ホ 善悪 ぜんあく

問11 ー線⑪「漫画」は「わたし」にとってどのようなものか。これより後の文章中から六字の表現を、ぬき出して答えなさい。

問12 ー線⑫「どうして」の後にはどのような言葉が省略されていると考えられるか。「どうして」に続く二十字以内の表現を考えて答えなさい。

問13 ー線A～Dは書かれている順番が、発言があった順番と異なる。発言があった順番に並べかえてA～Dの記号で答えなさい。

問14 ー線(1)「テマネキ」、(2)「ヒテイ」のカタカナの部分、それぞれ漢字に改めなさい。

(問題は次のページに続く)

三

二人の歌人の対談を読んで、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を変えているところがあります)

かへりみちひとりラーメン食ふことをたのしみとして君とわかれき

大松達知

穂村 大松さんの歌も面白いよね。

東 ① 現代っぽい感じがする。

穂村 一人で食べる方がよりのびのびと食べられるってことだね。私とラーメンとどっちが大事なの？ って(笑)。もちろん君だけど時々ラーメンみたいなの。そこに変なリアリティがある。

東 すごく正直な感じがする。でもなかなか恋愛を詠むということであらう。② 切り口では書かなかったよね。この辺の世代から変わってくるんだよね。恋愛が客観的というか少し冷静な感じに。

穂村 ラーメンという微妙さがおかしい。

東 事実っぽい。

穂村 牛丼だと少し行き過ぎで、フレンチとかイタリアンとかなら一緒に行くだろうという感じだし。

東 皆で食べると美味しいね、みたいなのは一般的だけど、一人で食べた方が気楽でいいっていうものもあるよね。新しい切り口があつてさりげないけれど、新鮮な気持ちになつたな。君よりもこっちの方が楽しいというのは、じゃあ君のことは、③ 好きじゃないんじゃない、とちよつと冷たい感じがするけれども、これはそういう感じになつてない。君は君で大事に思つてるといふのが

伝わってくるのが面白い。女子の場合、君と別れてから何かを楽しみにするっていうのあるかなあ。男の人はこういうふうに一
人で何かすることが楽しい。フィギュアを集めたりとか、ある種のオタク感だよ。女子は恋愛するとそこに集中しちゃう。

穂村 腐女子系の人とかあるんじゃない。自分だけの一人の世界みたいなものの位置づけというか。

東 そういえば、マンガで、古典にハマって『源氏物語』の研究をしていた人が、結婚して家事はちゃんとするんだけど夜中に起
きてずっと研究していたくてそれで倒れちゃったというのがある、奥さんよりも何よりもこういうことをしたかったんだなあ
と旦那が④ぼつつと言うというのがあったけど。一人の自分の好きな世界というのは恋愛感情とは違う、⑤別腹として大事にし
たいというのはあるよね。

穂村 一人旅が好きとかね。さらに登山なんかだと家族と敵対関係になるから。どんどんエベレストにも登るみたいになっていけば、
⑥奥さんからしたら夫を殺すかもしれない、とても危険な場所に行ってしまうことになる。登山ってなかなかやめられないみた
いだけだね。あと、知り合いのカメラマンがめっちゃめっちゃカブトムシに凝っていて、カブトムシのための部屋が必要で、大量の
カブトムシが家にいるというの⑦微妙かなと思った。

東 ラーメンを一人で食べるくらいなら良いよね。

底暗くぐらぐら何を煮込めるか分からぬが怖い人んちのシチュエー 村田一広

穂村 人んちが怖いっていうことだよ。さっきお雑煮の話をしてたんだけど、お雑煮の中にあんこの入ったのが地方によつて
はあるんでしょう。知らずに食べたらかかなりのカルチャーショックだよ。

東 事前に教えておいてくれないと、困るね。

穂村 外国だったらそういうものかなって思うけど、お雑煮なんて⑧ セレモニー感が強いから自分の家のお雑煮に生まれてから二十何年も馴染んで突然全然別種のを食べるとあまりに違うとショックを受けるというのはあるよね。これはシチューというのが⑨ ミソで、原料がわからないのと、澄んだものじゃないから、見ても分ならず、食べても分ならず、俺は何を食べてるんだ?! という感じ。自分ちと人んちのギャップね。

東 大松さんにも大根をこの町の人と分け合う「この町の見知らぬ人と一本の大根の上下分け合ひ暮らす」という歌があります。

穂村 同じ大根がそこでは全く違う姿になっている可能性があるということだよね。

東 最近では切って売られているから。昭和の① 八百屋さんは切ってなかったよね。

確実に甘いみかんを引き当てて酸っぱいのだけ食うてたおかん

羹昌浩

中を食べずに甘いのを引き当てて人に分けてた。で、自分は酸っぱいのを選んで食べてた。そのおかんの② 神通力。

穂村 ⑩ って韻を踏んでる。

東 みかんというのは、ほかの果物とは全く違う立ち位置というか、独特な食べ物だよね。⑪ 他の果物とは全然違う。

穂村 昭和の人ほどそう感じるんじゃないかな。それに、昔は酸っぱいのと甘いのとちよつとぶれがあった。

東 それが今だとあまりみかんの差がないっていう意味でも、これはちよつと昔の人の作品なんだろうね。冬になると、みかんというのは冬になるといつも家にあるもの。

穂村 段ボールの中に入っている。

東 その一部がこたつの上にもいつも置いてある。なんぼでも食べていいという。昔は甘いお菓子かしはそんなになかったから冬が一番のおやつだった。

(東直子・穂村弘『しびれる短歌』による)

問1 —線①「現代っぽい感じがする」とあるが、どのようところが「現代っぽい感じ」なのか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 恋人こいびととのいさかいがあっても、深刻に受け止めず、孤独こどくの中にも幸せはあると開き直っているところ。
- ロ 恋人の前では緊張きんちやうしてあまり食べなかったから、後でお腹なかが空いてきたと本音を明かしているところ。
- ハ 恋をしているても、一人だけの楽しみにもひかれるありのままの自分を、さめた目で見ているところ。
- ニ 恋愛を特別あつかいせず、ほかの喜びと同列に置き、その時の気分で優先順位を決めているところ。

問2 —線②「切り口」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ つき放し方 ロ 生々しい表現 ハ 自分中心の見方 ニ 目のつけどころ

問3 —線③「好きじゃないんじゃない」と最も意味が近いものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 嫌いなのだろうか ロ 嫌きらいなわけではない ハ 好きではないのだ ニ 好きなのかもしれない

問4 — 線④「ぼつと一言」とあるが、発言の内容はどこから始まるのか。初めの五字をぬき出して答えなさい。

問5 — 線⑤「別腹」が表す内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 幸せであればあるほど、別の幸せをめざそうとして高まってくる欲望。

ロ ほかの欲求が満たされても、それとは別に満たしたいと思う欲求の対象。

ハ 表向きはたてまとは別に、人には明かさず、心の中にしまっておく抱負。

ニ 夫婦や恋人とは別の深い関係で結ばれた、きょうだいのような貴重な存在。

問6 — 線⑥「奥さんからしたら夫を殺すかもしれない、とても危険な場所に行ってしまうことになる」とはどういうことか。次の中から最も適当なものを、一つ選んで記号で答えなさい。

イ 妻が身勝手な夫を殺してしまいたくなるくらいに、夫婦の仲が危機的な状況になり得ること。

ロ 妻との対立が夫を過激な行動に追いやり、妻のせいでも夫が遭難したとも言われかねないということ。

ハ 妻の目に、夫が命を落とす可能性のある危険なことをしていると映るような段階になるということ。

ニ 登山の経験が豊富な夫でも死の危険がある高山に、妻も考えなしに同行するようになるということ。

問7 ー線⑦「微妙びみょうかな」の表す内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 自分ではやめられないのかもしれない ロ 家族に受け入れられないかもしれない

ハ 好き嫌すききらいの問題ではないかもしれない ニ その気ならやめられるのかもしれない

問8 ー線⑧「セレモニー感が強いから」の表す内容として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 各自の信じている宗教に左右されがちだから ロ 儀式ぎしきばっついて味は問題にしないものだから

ハ 季節の風情ふぜいを楽しむことがおもな目的だから ニ 行事の決まった作法に大体は従うものだから

問9 ー線⑨「ミソ」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 工夫くふうがあつて、すぐれたところ。 ロ 失敗していて、困ったところ。

ハ 庶民しょみん的で、生活感のあるところ。 ニ 風変わりで、奥が深いところ。

問10 ⑩に当てはまる言葉として最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

イ 確実に引き当てて ロ 甘いみかん ハ 甘い、酸っぱい

ニ みかん、おかん ホ 食うてたおかん

問11 ー線①「他の果物とは全然違う」とあるが、どのようなところが「違う」のか。最も適当なものを、次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

- イ 季節になるといつも家であって、食べたいときに好きなだけ食べられるところ。
- ロ 切らずに食べられるから、今も昔も八百屋で切って売られることはないところ。
- ハ 酸っぱかったり甘かったりの差が、近ごろではほとんどなくなってきたところ。
- ニ なれた人だと、食べなくても見ただけでおいしいかどうかを当てられるところ。

問12 ー線(1)「八百屋」、(2)「神通力」の読み方を、それぞれひらがなで書きなさい。